
ぉッ

まずは、メスとして生まれたからには女の喜びを味わらせてやろう。
初めはくすたがっていたが、徐々に反応が変化する。次第に感じ始めたようだ。
幼いにも関わらず、いい反応をしてくれる。
マンコをじっくりと愛撫される感覚に慣れないのか
ミソギは戸惑いながらも確実に快感を得ているようだった。



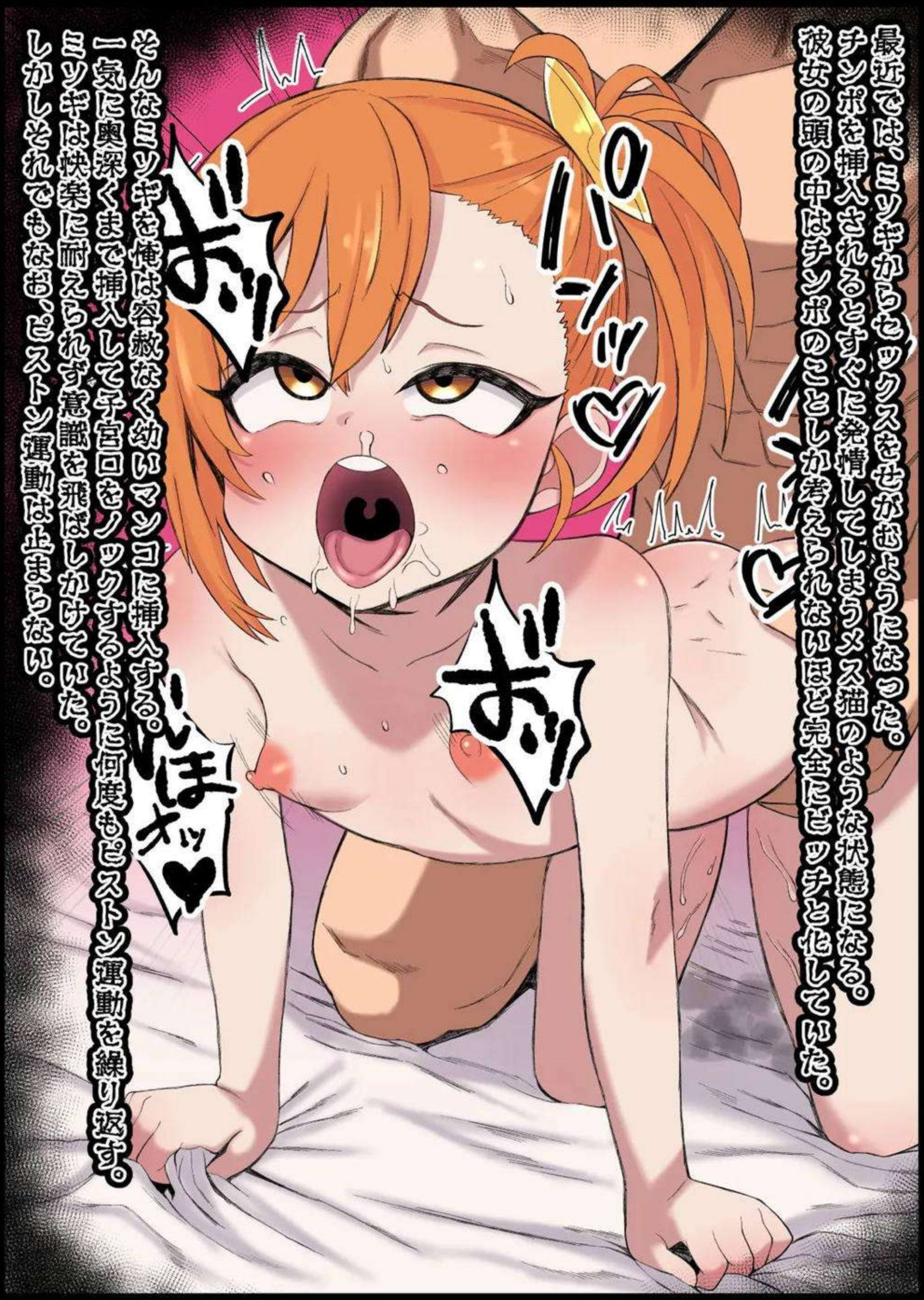
ミソギは、初めての手マンであるにも関わらず絶頂に達した。
幼い少女が年相応のあどけなさの残る表情で
潮吹きしている姿はとても背徳的で美しいものだった。
こうして、ミソギの『ロリクソビッチ』計画が幕を開けたのだった。

くり♥
くり♥
にゅちゃっ♡
にゅちゃっ♡
ビュッ

チンカス掃除の調教を施す。チンカスが溜まったチンポを舌で舐めて綺麗にさせる。
何日も風呂に入らずチンカスが溜まるまで待つ。
臭いチンカスまみれのチンポを綺麗にするためにミツギを呼び出したのだ。
ミツギにやり方をレクチャーし、実際にやってもらうことにした。
カリに溜まったチンカスを舌でこそぎ落とし、チンポが綺麗になるまで舐めさせる。



口の中に含ませたチンカスを、唾液で溶かして味わい飲み込ませる。
苦しそうに呻くミツギに大人はみんなやっていると適当なウソをついた。
以降もミツギはそれを信じて必死にチンカスを舐め続ける。
ミツギの純真さを利用した。悪く思わないでくれ。


最近では、ミソギからセックスをせがむようになった。
チンポを挿入されるとすぐに発情してしまうメス猫のような状態になる。
彼女の頭の中はチンポのことしか考えられないほど完全にビッチと化していた。
そんなミソギを俺は容赦なく幼いマンコに挿入する。
一気に奥深くまで挿入して子宮口をノックするように何度もピストン運動を繰り返す。
ミソギは快楽に耐えられず意識を飛ばしかけていた。
しかしそれでもなお、ピストン運動は止まらない。

喉奥に突っ込み舌根でグリグリ押し潰しながら上下させる。
強い吸引を行い唾液をたっぷり使いながら上下左右に動かしていく。
その間もずっと喉の奥へと打ち付けるようにして出し入れを行う。
苦しさと快感が入り混じるような表情をしているが気にせず続ける。

ボボボボ♡

喉の奥まで突かれるたびに苦しそうな声を上げながらも必死に耐えている様子だった。
激しい動きに合わせて水音が鳴り響く。
目が白目になり、窒息死ギリギリまで追い込んだ。